

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105693
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム ひめ椿
所在地	松山市今在家4丁目7-28
自己評価作成日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理事長が医師であり、月2回の往診を実施。体調不良時には同系列の施設の看護師より医師へ報告し、指示を仰ぐという連携が出来ている。(24時間)
 ・また、同系列の施設の行事や地域の行事にも参加させて貰っており、ホームの行事以外でも季節ごとの行事を楽しんで頂けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居間には明るい陽射しが差し込みホーム全体が明るい。ホーム内の各所にテーブルやソファが置かれ、そこから眺められる田園風景は季節のうつり変わりを見ることができ、利用者が穏やかに自分のペースで過ごすことができている。ホームは介護老人保健施設の看護師と24時間連携しており、利用者は医療面でも安心して過ごすことができている。地域の行事に参加したり、ホームの行事に参加してもらう等地域との交流も深まってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ひめ椿

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 菅 典子

評価完了日 H23 年 1 月 26 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「家で生活しているように」地域密着に沿った理念を職員が集まる事務所に掲げており、職員全員で共有し、実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスの意義を理解し事業所独自の理念を作っている。理念は事業所内に掲示し、管理者と職員はユニット会で話し合い利用者の日々の生活を支えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事（夏祭りや秋祭り）に参加させて頂いている。また、地域の方が入居された事により、より身近になったと思う。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議等で地域の情報を得て地域の夏祭りや、地方祭等に参加している。近くにある同法人の施設と合同で行っている夏祭りには地域の方の参加が得られている。また散歩時には挨拶を交わす関係ができており、地域との交流も深まってきている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議等を通して話し合いの場を設けて理解して頂く様努めている。（地域の危険場所や避難場所・安全な散歩コース等と地域の人に伺い、『地域マップ』を作成中）</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催しておりホームの現状紹介も兼ねて報告させて頂いている。会議で話し合われたことは職員に伝えて周知して貰うようにしている。	
			(外部評価) 2か月に1回、同地域内にある同法人のグループホームと合同で開催している。利用者、家族、地域住民、市や包括センターの職員、ホームの職員等が参加している。ホームの現状報告や意見交換、勉強会等が行われており、そこで出された意見をサービスの向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議やグループホームの連絡協議会で話し合っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらっており、意見やアドバイスをもらっている。また生活保護や単身の方、家族が遠方にいる方等の、対応について相談するなど良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 敷地外へ出られる人がいる為、やむなく門を施錠しているが、毎日時間を決めて開放するように努めている。	
			(外部評価) 法人内で研修会を行い理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の鍵は以前は安全のため施錠していたが、現在は時間を決めて開けるようにしている。利用者が外出する際一緒に付いて行く等、見守りながら対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設での勉強会で学び、虐待の無い様に注意して防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当者がおらず、権利擁護の詳細を学ぶ機会がもていない為、活用するに至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前・時に文書や口頭にて詳細に説明をして、入居者やご家族の疑問や不安を伺ってお話し、理解・納得して頂ける様に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には意見箱を設置し、重要事項説明書には第三者機関を含めた苦情相談窓口も明記している。直接職員に言われた時は、『苦情相談ノート』に記して職員間で共有し、反省し、話し合っている。 (外部評価) 日頃の生活の中で利用者の意見や要望をしっかりと聞き取るよう努めている。また、家族の意見等は面会時や電話、運営推進会議等で聞くよう心がけている。毎月「ひめ椿だより」を郵送し、ホームの状況を知らせて連携を深めるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月1回職員会（全体会・ユニット会）を行ない、職員の意見や提案を聞いて話し合いの場を設けている。</p> <p>(外部評価) 職員会議や、ユニット会、リーダー会等で職員の意見を出すことができる。職員も定着しており、管理者に意見を言いやすい関係ができてきている。また、管理者は職員の意見を同法人の事業所と合同の主任会で運営者等に伝える機会があるなど、職員の意見が運営に反映される仕組みがある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員一人ひとりのことを把握し、全員が向上心を持って働ける様、職場環境条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、施設内研修（勉強会）を行ったり、外部の研修も掲示板に掲示して参加を促している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同系列の施設職員や病院のスタッフとの交流で、サービスの質を向上させていける様、取り組んでいる。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居初期は不安も大きい為、その人の思いや要望を把握して、環境に早く馴染んで安心して過ごして頂ける様、努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時にご家族の要望を伺い、話をさせて頂いて信頼関係を作れるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時や面会時に本人・家族との話し合いにて要望された事を極力取り入れるよう、努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 可能な限り、本人のニーズやレベルに合わせた対応を心がけている。過介護にならない様、気をつけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月に一回、家族には便り（ホームでの行事や入居者の状況を書いて）を送ったり、面会時にお話をしたり、相互から本人を支えていける様、努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 独身・独居の方が多く、馴染みの人との関係が途切れないよう、手紙を投函したり、電話をかけたりして支援している。 (外部評価) 利用者と家族と一緒に外出して、馴染みの店で買い物や外食ができるよう支援している。美容室の定期的な来所があり、馴染みの関係ができています。ホームでの生活が長い利用者は、ホームでの新しい馴染みの関係ができており継続できるよう支援がされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を職員が把握できており、トラブルの無い様、円滑な関係が保てる様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後はどうしても関係が途切れてしまうが、同系列の施設や病院に移られた場合は面会に行き、お話をさせて貰っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者一人ひとりの思いや要望を把握するように努め、家族に相談する等、可能な限り支援できる様に職員間で話し合っている。 (外部評価) 利用者の担当職員を決めてはいるが、職員一人ひとりが日頃から利用者の話をよく聞き把握に努めている。得られた情報は申し送りノート等に記録し、職員全員に伝えて共有を図り、個別に支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人記録、フェースシートや家族にお話を伺って入居者の生活歴や経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々一緒に過ごし、寄り添う事で入居者一人ひとりの状態や現状の把握に努めている。また、月1回のユニット会で個々の状態について、職員全員で話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族に話を伺い、またユニット会にて職員全員で話し合っって現状に合った計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族、職員の意見を取り入れてユニット会で話し合いを行い介護計画を作成している。また計画は定期的に見直しを行っており、状態が変わればその都度話し合いを行い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録に日々の様子やケアの実践・気づきを時間順に詳細に記入する様にし、職員全員が把握できるように努め、計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の状態やニーズの変化により、その状態に沿った柔軟な対応が出来ている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 十分な地域資源を把握や利用は出来ていないが、ボランティアで懐かしい歌を歌い、皆が楽しく過ごして頂ける様、努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族や本人が希望する主治医に診て頂いているが、そ の他に施設の理事が医師なので月2回往診実施し、必 要時は受診対応等、支援している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援 している。協力医療機関から月2回往診あり、他のか かりつけ医の利用者も希望に応じて診てもらえる事 ができる。またホームは同法人の老人保健施設の看護 師と24時間体制で連携しており、利用者も医療面で 安心ができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 関連施設の看護師と連携を取り、急変時に相談・連絡 して適切な受診や看護を受けられるよう、支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には介護サマリーを渡し、入院中には何度か病 院に何度か赴いて看護師に状態を伺ったり、退院前 には家族了承の下、担当医師の話や聞き取りと、関係作り を努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階から話し合いは出来ていないが、重度化した 場合、関連施設・病院への繋がり等を説明して納得 して頂いている。 (外部評価) 利用者や家族の希望やホームの状況などを勘案したう えで看取りをすることを入居時に説明している。利用 者の状態の変化に応じて、家族や医師、看護師、職員 等と話し合いを行い方針を決めるようになっている。	重度化した場合や、終末期のあり方については家族や 関係者と早期からの話し合いが望まれる。また、直接介 護を行う職員への重度化や終末期の対応についての知 識や技術の習得は、計画的に継続して行うことが望ま れる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設の勉強会やマニュアルを設置しているが、定期的には行えていない為、事故が起きた時には戸惑いがあるのではないかと思う。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、夜間時と日中時を想定した消防訓練を実施して入居者が安全に非難できるように全職員が避難場所を周知している。災害時には地域の協力も要請・承諾して貰っている。 (外部評価) 年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。利用者も参加して訓練を行っているので、避難経路の把握もできている。またスプリンクラーの設置もされている。地域の方への協力をお願いしているが、今までの訓練に参加は得られていない。	職員だけでは対応に限界があるため、地域の協力は必要である。運営推進会議の参加者を通じて地域の方に呼びかけたり、地域の自主防災組織にも働きかけるなど、地域の協力を得た訓練が行えるような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の人格やプライバシーを損ねないように、個々に合わせた言葉かけや対応をする様、努めている。 (外部評価) トイレ誘導などの職員の声かけは優しく穏やかで、さりげない対応がされており、利用者の人格を尊重しプライドを傷つけない対応がされている。利用者と職員の信頼関係が築かれている様子がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の希望を伺い、対応出来る様努めている。また、自己決定を尊重するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 多忙時は職員の都合になってしまう時があるが、可能な限りは本人のペースに沿って過ごして頂ける様、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で服を選べる方は、好みの服装をして貰っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根きり等、食事の下拵えやおしぼり巻きをして頂いている。食事を楽しんでもらえるような味付け・盛り付けに努めている。	
			(外部評価) 食事の準備ができる利用者は少ないが、下準備や後片付け等、できることを無理なくしてもらっている。職員も利用者の中に入り会話を楽しみながら食事をしている。献立は利用者の好みを取り入れながら栄養士が立てており、栄養のバランスがとれた食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 関連施設の栄養士が毎食メニューを立てている。一人ひとりの摂取量を記録して、個々の状態で声掛け・介護支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来る人は声掛けを、困難な人には介助をして口腔内の清潔に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄のパターンを把握し、要介助の人でもオムツにはしないで可能な限りトイレにて排泄して貰えるよう、支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握して声かけや誘導を行っている。夜間はオムツを使用している人も、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘にならない様、水分を多く摂って貰ったり、緩下剤の調整をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一応週3回と入浴の曜日は決めているが、その日の体調・状態により、変更して臨機応変に入浴出来る様にしている。	
			(外部評価) 入浴が行われる日や時間は決められているが、週3回は入浴できるよう支援しており、体調を考慮しながら柔軟に対応している。機械浴ができるよう設備も整えられており、利用者の状態によって気持ちよく安全に入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、臥床する時間を取り入れて、一日起きっ放しでいる事が無い様、体を休めて貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルしており、必要時にはそれを用いて入居者が服用している薬を理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの興味のある事や楽しみごとを把握しており、気分転換に繋がるような支援を心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に沿った外出支援は出来ていないが、面会時に家族に希望を伝えるようにしており、温泉やご飯を食べに行ったりと協力して頂いている。 (外部評価) 天気の良い日には近隣の神社や公園等に散歩に行ったり、利用者の希望に応じて近くのコンビニにお菓子等買いに行っている。ホームの行事としてお花見や外食等計画している。また、同地域内にある同法人の施設との合同の行事も多くあり、利用者も楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持するのは困難である為、家族の話も伺って職員が小口預り金として預らせて貰っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書いてポストへ投函するのを支援したり、ファックスを送信したり、電話の取次ぎ、等、柔軟にやり取りをして貰えるよう、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ユニットの壁には季節ごとの壁面を作ったり、入居者に塗り絵を塗って貰って作品を作ったり、リビングや玄関には花を活けたり、ソファを置いて自由に座って頂いたり、居心地良いように過ごして頂いている。	
			(外部評価) 居間は明るく、窓から見える外の景色や室内の飾り付けなど季節が感じられるよう工夫されている。各所にテーブルやソファが置かれており、利用者が思い思いの場所で自分のペースで過ごすことができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間で独りになれる空間はないが、そういう時は居室で過ごして頂いたり、入居者が他入居者の居室に行かれたりと自由に過ごして頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には家族の希望で位牌を置いたり、花や馴染みの物を自由に置いて貰い、居心地よく過ごせる様に支援している。	
			(外部評価) ベッドとダンスは備え付けられているが、利用者が使用していた馴染みの家具や、洋服掛け、いす、位牌、写真等持ち込まれている。家具の配置や壁の飾り等は、利用者の好みや状況が考慮され、落ち着いて過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) あらゆる場所に手すりを設置し、ナースコールも理解できる方には必要時に鳴らして貰うようにしている。一人ひとりが自分のペースで過ごして頂けるよう、支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105693
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム ひめ椿
所在地	松山市今在家4丁目7-28
自己評価作成日	H23.1.26

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理事長が医師であり、月2回の往診を実施。体調不良時には同系列の施設の看護師より医師へ報告し、指示を仰ぐという連携ができています。(24時間)
 ・また、同系列の施設の行事や地域の行事にも参加させて貰っており、ホームの行事以外でも季節ごとの行事を楽しんで頂けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居間には明るい陽射しが差し込みホーム全体が明るい。ホーム内の各所にテーブルやソファが置かれ、そこから眺められる田園風景は季節のうつり変わりを見ることができ、利用者が穏やかに自分のペースで過ごすことができている。ホームは介護老人保健施設の看護師と24時間連携しており、利用者は医療面でも安心して過ごすことができている。地域の行事に参加したり、ホームの行事に参加してもらっ等地域との交流も深まってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ひめ椿

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)
氏名 上見 曜子

評価完了日 H23 年 1 月 26 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所独自の理念の中に地域との交流を1つの目標として掲げ、理念を共有出来る様事務所内に掲示し、実践に繋げている。	
			(外部評価) 地域密着型サービスの意義を理解し事業所独自の理念を作っている。理念は事業所内に掲示し、管理者と職員はユニット会で話し合い利用者の日々の生活を支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夏祭り・秋祭り等、地域の行事に参加させて頂き、地域の方との交流を深めている。	
			(外部評価) 運営推進会議等で地域の情報を得て地域の夏祭りや、地方祭等に参加している。近くにある同法人の施設と合同で行っている夏祭りには地域の方の参加が得られている。また散歩時には挨拶を交わす関係ができており、地域との交流も深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会・行事等を通し、理解して頂けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催してホームの様子や行事報告を行っており、地域の方からも楽しめる場所・危険な場所の情報、地域行事の情報等を得ている。	
			(外部評価) 2か月に1回、同地域内にある同法人のグループホームと合同で開催している。利用者、家族、地域住民、市や包括センターの職員、ホームの職員等が参加している。ホームの現状報告や意見交換、勉強会等が行われており、そこで出された意見をサービスの向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議へ出席して頂き、協力関係を築ける様努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらっており、意見やアドバイスをもらっている。また生活保護や単身の方、家族が遠方にいる方等の、対応について相談するなど良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会等にて理解を深め、拘束しない介護を目指し取り組んでいる。施錠については安全第一で利用者の方の状況を見ながら、段階的に開場時間を長くしている。	
			(外部評価) 法人内で研修会を行い理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の鍵は以前は安全のため施錠していたが、現在は時間を決めて開けるようにしている。利用者が外出する際一緒に付いて行く等、見守りながら対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会で学ぶ機会を設け、虐待が見過ごされる事が無い様、全職員が注意し、意識して入居者と接している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会等で学んでいるが、実施に話し合いの場を設けたり、活用した事は無い為、今後必要に応じて活用出来る様、更に知識を深めていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 話し合いの場を設け、入居者・家族が納得し、不安が軽減するよう説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置したり、家族が面会に来られた際にお話し、意見等を伺うよう努め、何か苦情等があればユニット会で話し合い改善に努めている。(ノートに記している) (外部評価) 日頃の生活の中で利用者の意見や要望をしっかりと聞き取るよう努めている。また、家族の意見等は面会時や電話、運営推進会議等で聞くよう心がけている。毎月「ひめ椿だより」を郵送し、ホームの状況を知らせて連携を深めるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月1回、職員会（全体会・ユニット会）を行ない、職員の意見や提案を聞いて話し合いの場を設けている。</p> <p>(外部評価) 職員会議や、ユニット会、リーダー会等で職員の意見を出すことができる。職員も定着しており、管理者に意見を言いやすい関係ができてきている。また、管理者は職員の意見を同法人の事業所と合同の主任会で運営者等に伝える機会があるなど、職員の意見が運営に反映される仕組みがある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員一人ひとりの事を把握し、全員が向上心を持って働ける様、職場環境条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、施設内研修（勉強会）を行ったり、外部の研修も掲示板に掲示して参加を促している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同系列の施設職員や病院のスタッフとの交流でサービス</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 傾聴の姿勢でその都度対応し、本人の思いを把握するよう努め、できる限り不安が軽減するよう信頼関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の希望、不安な事等を伺いながら、信頼関係作りに努め、安心して頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 一番必要としている支援は何なのかを考え、意見を伺いながら出来るサービスを行ない、支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方から教えて頂くことも多くあり、入居者・職員という枠にとらわれず、入居者を尊重し、家族のような関係作りに取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族の方の絆を大切にし、面会時には家族で過ごして頂ける様にしている。また、月に1回のお便り等で入居者の様子を伝え、信頼関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人より訴えがあれば、家族と相談し、関係が途切れない様実現に向け努力しているが、全ての方の支援は出来ていない。 (外部評価) 利用者と家族と一緒に外出して、馴染みの店で買い物や外食ができるよう支援している。美容室の定期的な来所があり、馴染みの関係ができています。ホームでの生活が長い利用者は、ホームでの新しい馴染みの関係ができており継続できるよう支援がされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わりあえるよう、食事をする際の席を決めたり何かあれば職員が間に入る等、支援に努めている	(自己評価) 日常の様子から入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わりあえるよう、食事をする際の席を決めたり何かあれば職員が間に入る等、支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した後の相談や支援は行っていないが、同系列の施設や病院へ転所した方には会ってお話させて頂いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話や様子から、思いや希望を伺い把握するよう努め、ユニット会等にて情報を共有し、出来る限り意向に沿える様取り組んでいる。困難な場合、家族から意見を伺い、本人本位に検討している。	
			(外部評価) 利用者の担当職員を決めてはいるが、職員一人ひとりが日頃から利用者の話をよく聞き把握に努めている。得られた情報は申し送りノート等に記録し、職員全員に伝えて共有を図り、個別に支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サマリーやフェースシートに必ず目を通し、本人・家族から話を伺って把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日その日で記録に記し、職員間で情報交換し、色々な角度から一人ひとりの現状を把握できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 入居者、家族の意見・要望を伺いながら、職員が意見・アイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成して見直しを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族、職員の意見を取り入れてユニット会で話し合いを行い介護計画を作成している。また計画は定期的に見直しを行っており、状態が変わればその都度話し合いを行い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 食事量や身体状態等の記録は勿論の事、関わった職員しか分からない事実や気づきを記すよう心がけ、職員全員が目を通して情報を共有しながら見直しの際にも活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その都度柔軟に対応出来る様にしているが、全てのニーズには対応できていないのが現状だと思う。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行事等でボランティアに来て貰ったり、消防訓練の際に消防署員に来て指導して頂く等、協力して貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望する主治医に診て貰い、納得した適 切な医療が受けられるよう、支援している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援 している。協力医療機関から月2回往診あり、他のか かりつけ医の利用者も希望に応じて診てもらえる事 ができる。またホームは同法人の老人保健施設の看護 師と24時間体制で連携しており、利用者も医療面で 安心ができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特変があった場合、直ぐに同系列の施設の看護師へ 連絡し、必要に応じて来て貰ったり、その都度適切 な看護が受けられるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関と情報交換をしながら、連携を取り安心 して治療し、早期に退院出来る様支援し、体制 作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に家族と重度化した場合の話は行っている が、具体的な話し合いは出来ていない。 (外部評価) 利用者や家族の希望やホームの状況などを勘案 したうえで看取りをすることを入居時に説明して いる。利用者の状態の変化に応じて、家族や医 師、看護師、職員等と話し合いを行い方針を決 めるようになっている。	重度化した場合や、終末期のあり方については 家族や関係者と早期からの話し合いが望ま れる。また、直接介護を行う職員への重 度化や終末期の対応についての知識や技 術の習得は、計画的に継続して行うこと が望まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事務所にマニュアルを置いており、勉強会等にて学んで事故発生時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、避難訓練を行っており、地域の方へは運営推進会議を通して協力の呼びかけをしている。 (外部評価) 年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。利用者も参加して訓練を行っているので、避難経路の把握もできている。またスプリンクラーの設置もされている。地域の方への協力をお願いしているが、今までの訓練に参加は得られていない。	職員だけでは対応に限界があるため、地域の協力は必要である。運営推進会議の参加者を通じて地域の方に呼びかけたり、地域の自主防災組織にも働きかけるなど、地域の協力を得た訓練が行えるような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の性格・生活習慣をしっかり理解し、尊重して一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない声掛け対応を行っている。 (外部評価) トイレ誘導などの職員の声かけは優しく穏やかで、さりげない対応がされており、利用者の人格を尊重しプライドを傷つけない対応がされている。利用者と職員の信頼関係が築かれている様子がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望を表しやすくなる様な雰囲気を作ったり、意思表示が難しい(苦手)な人に関しては、表情で把握できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の過ごし方は、出来る限り希望に沿えるようにしているが、出来ない時もあり、職員の都合が優先されている事がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居者の状態に応じてその日着る服を選んで頂く等、お洒落を少しでも楽しんで頂ける様支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下準備等、その日のメニューにより手伝って頂いている。また、食事作り、おやつ作りといった行事を設け、入居者と一緒に楽しみながら出来る様努めている。 (外部評価) 食事の準備ができる利用者は少ないが、下準備や後片付け等、できることを無理なくしてもらっている。職員も利用者の中に入り会話を楽しみながら食事をしている。献立は利用者の好みを取り入れながら栄養士が立てており、栄養のバランスがとれた食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量など随時記録し、摂取量の少ない人にはその都度声掛けを行ない、摂取方法を帰る等支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 清潔が保持出来る様、見守り・一部介助等、各々のレベルに応じたケアを行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄出来る様努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握して声かけや誘導を行っている。夜間はオムツを使用している人も、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り自然な排便に繋がるように、水分摂取や運動の声掛けを行ったり、腹部マッサージを行う等している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入所者が順番に入浴できる為にも曜日を決めさせて頂いており、全ての方の希望には沿えていない。が、入浴時にはプライバシーに配慮し心地よく入浴出来る様、支援している。	
			(外部評価) 入浴が行われる日や時間は決められているが、週3回は入浴できるよう支援しており、体調を考慮しながら柔軟に対応している。機械浴ができるよう設備も整えられており、利用者の状態によって気持ちよく安全に入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の温度調節を行ない、入居者に希望を伺いながら体に負担の無い様、一人ひとりに応じた支援を行ってゆっくりと安眠・休息出来る様、努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全ての方の副作用は把握できていないが、用量等については把握し、誤薬する事が無い様注意している。また、体調不良時等には薬情報を見直して確認するよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりに応じた気分転換の方法を考え、それが楽しみとなるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る限り努めているが、出来ても散歩程度のものであり、日常の会話の中で行きたい場所等を聞き、外出行事に活かしたり、家族の協力をお願いしている。 (外部評価) 天気の良い日には近隣の神社や公園等に散歩に行ったり、利用者の希望に応じて近くのコンビニにお菓子等買いに行っている。ホームの行事としてお花見や外食等計画している。また、同地域内にある同法人の施設との合同の行事も多くあり、利用者も楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の人のみ小額のお金を所持されているが、基本的には全員事務所にて管理している。使途については、その都度家族に了承を得ており、定期的に収支書にて報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望を尊重し、好きな時に電話が掛けられるよう支援している。希望があれば手紙のやり取りの支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 換気を行い、入居者が心地よく過ごせるよう配慮し、温度計を確認しながらエアコンの調節等行っている。また、廊下の壁に季節の掲示物を貼ったり、花を活ける等の工夫をしている。	
			(外部評価) 居間は明るく、窓から見える外の景色や室内の飾り付けなど季節が感じられるよう工夫されている。各所にテーブルやソファが置かれており、利用者が思い思いの場所で自分のペースで過ごすことができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング以外にもソファ、机を設置し入居者が好きな時に利用出来る様、環境を整えている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具を置いたり、壁に家族の写真を飾る等、居心地よく過ごして頂ける様、工夫している。	
			(外部評価) ベッドとダンスは備え付けられているが、利用者が使用していた馴染みの家具や、洋服掛け、いす、位牌、写真等持ち込まれている。家具の配置や壁の飾り等は、利用者の好みや状況が考慮され、落ち着いて過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、階段等に手すりを設置しており、安全に過ごして頂ける様、支援している。また、居室前に名前を掲げたり、トイレの扉にマークをつける等、分かりやすくしている。	